

# 奈良のむかしばなし

第66話

## 矢じりの井戸

文・山崎しげ子

### 太子道

をして言つた。

太子は早速、持つていた矢の先で地面をひと突きした。すると不思議、きれいな清水が「こんこんと湧き出した。それからは、太子はいつもここでひと休みし、その清水をお飲みになつた。村人たちも大変喜び、「矢じりの井戸」と名付けて毎日の生活に便で大切に使つたそうだ。

奈良盆地のほぼ中央、磯城郡三宅町。そこを通る「太子道」（筋違道）。若き聖徳太子が、自らの学問所、住まいとした斑鳩宮から、当時、都のあつた飛鳥の小墾田宮へ通つた道として知られる。今回は、その道筋での太子にまつわるお話。

＊

聖徳太子は、いつものように愛馬に乗り、従者の調子磨を連れて斑鳩から飛鳥へ太子道を通つておられた。

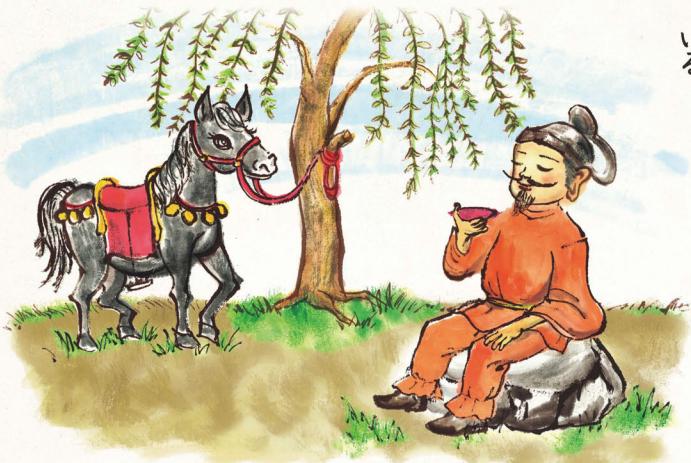
ある冷たい風の吹く寒い日、太子

は三宅の村でひと休みされた。村人は三宅の村でひと休みされた。村人たちは心配し、風除けに屏風を立ててもてなした。太子は大変喜び、村の名前を「屏風」と名付けられた。ある夏の暑い日にも、太子はこのあたりでひと休みし、冷たい水を望まれた。困った村人は「ここでは、井戸からいい水が湧きません」と哀しい顔

聖徳太子は、いつものように愛馬に乗り、従者の調子磨を連れて斑鳩から飛鳥へ太子道を通つておられた。太子は、いつのよ

聖徳太子は、推古天皇の即位（五九二年）のあと、皇太子として天皇とともに政治を行つた。遣隋使の派遣、冠位十二階、十七条憲法の制定、また仏教興隆に尽力した。

太子が通われた太子道。その距離約20km。今も三宅町、田原本町で往時の道を辿ることができるが、他の多くは不明に近い。



「腰かけ石」、「黒駒に乗る太子像」、向かいの屏風杵築神社には、「矢じりの井戸」（屏風の清水）、また、太子を祀る菓子でもなすようすを描いた「太子接待の絵馬」も残る。

戦前までは豊かな田園風景が町全体に見られたという三宅町。今は民家や店舗、工場なども多く建つ。とはいっても、町の西側に広がる稻田では、すでに黄金色に実った稻穂が秋風に揺れ、十月の稻刈りを待つている。

聖徳太子が斑鳩宮から飛鳥の小墾田宮へ往来した道沿いには、太子ゆかりの「白山神社」や「屏風杵築神社」があり、毎年11月22日に村人が太子を接待した故事にちなみ、太子の足跡をたどる法隆寺主催のウォーキングラリー参加者に、赤米の粥や湯茶の接待などを行う「太子道の集い」が開催されている。

またこの道は、中世以降、「法隆寺街道」とも呼ばれ、生活道路として利用され、現在も町道70号線として活用されている。

### 物語の場所を訪れよう

太子道へは…  
近鉄石見駅から西へ約1km

矢じりの井戸（三宅町屏風）へは…  
近鉄石見駅から北西へ約1.8km



問三宅町政策推進課 ☎0745-44-3070

